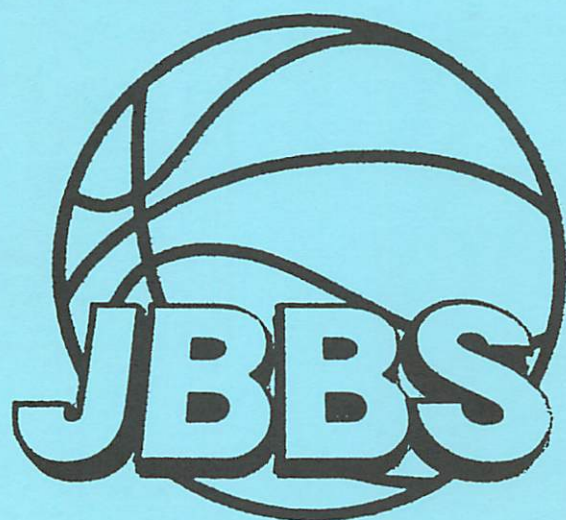


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:19



2002年12月

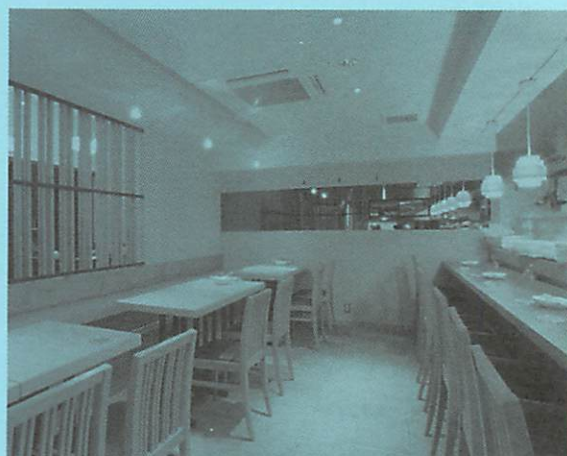
日本バスケットボール振興会

ハ詩 (はちうた)

BISTRO HACHI-UTA

BISTRO 八詩

渋谷の喧騒を忘れそうな和める空間で、旬の素材を。



ごまや

BISTRO ごまや

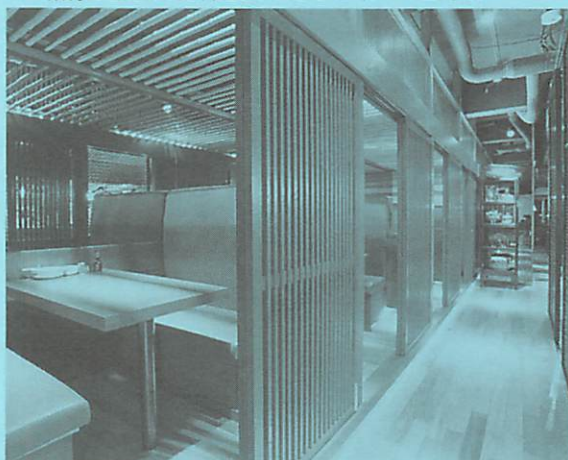
渋谷の真ん中と思えない、まるで大人の隠れ家。



ごまや

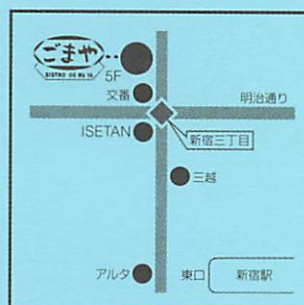
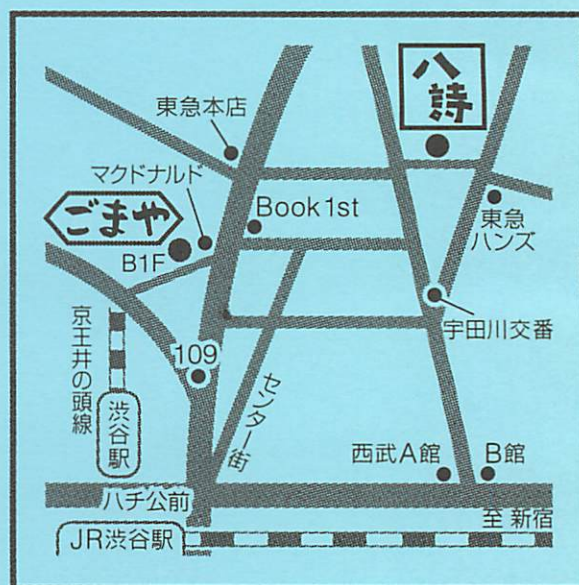
BISTRO ごまや・新宿店

素材にこだわった料理とひとときを、和みの空間で。



おすすめメニュー

手造り胡麻豆腐
季節の野菜で胡麻よごし
豚肉ニンニク味噌巻き
生タコの青のり揚げ
ピリッと胡麻の葉炒飯
生ウニたっぷりスパゲッティー



東京都新宿区新宿3-4-1

カルムビル5F

tel:03-5269-8158

Open 11:30 ~ Last Order 22:45

年中無休 <120席(個室大小12部屋)>

JACKPOT GROUP OFFICE ジャックポットグループ・オフィス

〒155-0032 東京都世田谷区代沢5-35-8 岩瀬ビル1F

TEL 03-3413-9555 / FAX 03-3412-7332 www.jack-pot.co.jp

目 次

○ 秋季懇親会盛況裡に終了	3
○ 特集	
日本協会石川副会長兼専務理事に伺う 広報部会	6
○ 日本協会中長期強化方針（J A B B A変革21）.	10
○ 特別寄稿	
高校(旧制)単独チームの全日本選手権制覇 井上 陽一	18
記者の目から見た日本のバスケット 千葉 直樹	23
○ 風神雷神	
日本人独特のバスケットと身長別クラス分け 石原 進	26
○ わが軌跡	
関東実業団連盟の思い出 三木 均	28
○ 会員だより	
第21回全国ママさん交歓大会を終えて 田中 悦子	30
○ 会員近況	32
○ 平成14年度関東学生リーグ戦結果	42
○ 平成15年度日本協会スケジュール	44
○ 全国高校選抜優勝大会（ウィンターカップ）組合せ	45
○ 訃報・事務局だより	47

特 集

日本協会石川副会長兼専務理事に伺う

—— 2006年世界選手権日本開催と強化へ向けて ——

担当：広報部会

日本協会石川副会長兼専務理事は、本年8月アメリカ・インディアナポリスで開催された男子世界選手権大会を視察されました。振興会としては、2006年に日本で開催される男子世界選手権大会への対応や、過日発表された「変革21」による強化方針について、直接同氏からいろいろお伺いすることができました。

以下その概要についてご報告致します。



石川 武 氏

昭和11年北海道生まれ66歳、苫小牧清水高校から日本体育大学へ進み、卒業後はそのまま同大学に残り講師から教授へ。現在日本体育大学教授兼バスケットボール部顧問。今年からアジア連盟副事務総長、東アジア連盟副会長に就任。

—— アメリカ・インディアナポリスで開催された世界選手権大会を視察されたそうですが、開催会場などの施設はいかがでしたか？

「一つはRCAドームといってインディアナポリスのフットボールチームが持っている4万5千人位収容のドームを仕切った、3万人位を収容できるドーム式体育館と、約1kmくらい離れたところにある、NBAのインディアナ・ペイサーズの本拠地コンセコフィールドハウスという体育館とで開催されました。

両会場の間に選手村や役員宿舎、メディアハウスなどが完備されていて、施設的には最高の条件で開催されたと思います。特にコンセコフィールドはテレビ放映や世界に向けたインターネットなどの設備がそろい、光ファイバー網も完備されて文明の密度が非常に濃いという感じを受けました。」

—— さすがバスケの本場アメリカですね。

「本場というよりスポーツコーポレーション的な会社があって、それが街づくりの中に参加しているという、地域そのものが最初からそのような会社と一緒にあって施設づくりを計画するというやり方だそうです。イベント会場なども大きく多数で、例えば練習会場などは4箇所設けられていましたが使い切れないほどですし、会議場なども十分過ぎる程でした。NCAA（全米大学連盟）の全国選手権大会を数多く誘致して開催している都市で、NCAAの本部もあるところですので、バスケットボールに対しての熱の入れようは大変なものでした。」

—— 今回の大会でアメリカが負けましたがゲームの方はどうでしたか？

「今回のアメリカの敗退は歴史的なものだと思います。地元アメリカで開催された世界選手権で3敗もしたことと、NBA選抜が世界的な大会でこんなに負けるということは、今までにないことであり、我々が感じる以上に大変な屈辱だったことと思います。そのせいか観客もやや少なく最終日でも満員にはなりませんでした。」

—— 優勝はユーゴスラビアでしたが、ヨーロッパのバスケットが強化されているということでしょうか？

「一概には言えないと思います。NBA選抜がベストの布陣ではなかったことや、最近各国のトップクラスでNBAに採用されていた選手が、自分の国のチームへ帰って活躍していることなどが挙げられます。そういう意味でNBAはアメリカのNBAというより、世界のNBAになってきたとも言えるでしょう。アメリカに勝ったユーゴやアルゼンチンは、NBAの選手が数人いてアメリカのNBA選抜に臆することなく堂々と戦っていましたね。」

—— FIBAの会議などにも出席されましたか？

「はい。FIBAのセントラルボード会議に出席し、現FIBA会長であるセイ・モロー氏（セネガル）にもお会いしました。今回は通常の議題のほか人事についても論議され、新会長にアジア連盟会長のカールチン・メンキー氏（香港）が選ばれました。事務総長もスタンコビッチ氏（ミュンヘンFIBA本部）からボーマン氏（ジュネーブFIBA新本部）に変わりました。スタンコビッチ氏は何回も来日された方で日本通ですが、ミュンヘンの旧本部に残って新事務総長に協力することになっています。」

—— 今回専務理事がFIBAの会議に出席されたことにより、日本のバスケット外交も大きく前進したのではという印象ですが？

「今まで国際部の方に出席して頂き、それなりにFIBAとの親交を築いてきましたが、今回は日本が次の世界選手権開催国でありますし、また私がアジア連盟の役職に就任したこともありまして、直接出向いたほうが良いと考え出かけました。次回開催へ向けての諸調査とFIBAとの調整などが主な目的でしたが、お陰様でうまくいきました。例えば、次回開催の記者発表会には200人以上の関係者が集まり大変な盛況でしたし、レセプションも良かったです。記者発表の開催日設定などもFIBAが協力してくれ、2006年に向けて良いPRができました。世界選手権開催についての諸情報を世界に流してくれるのはやはりマスコミだと思いますので、良い宣伝の機会だったと思っています。」

—— 2006年の世界選手権では“さいたまアリーナ”以外にも会場が必要と聞きましたか？

「まだ公式ではありませんが、FIBAのスタンコビッチ現事務総長が記者会見で発表したところによると、2006年の世界選手権から開催方式を改め、従来16チーム参加で開催していたものを24チーム参加とし、6チームずつ4ブロックで1次予選を行うというやり方になりそうです。そうすると“さいたまアリーナ”だけでは会場をまかない切れず、現在全国都道府県に開催の打診を行っているところです。」

—— 次回から開催方式が変わるということでしょうか？

「まだ決定されてはいませんが、FIBAでは変えたいと言っています。その理由はバスケットボールの世界戦略として、参加チーム数を増やし活性化を図りたいという考えがあるようです。日本が誘致したときは16チームによる大会でしたので、日本にも相談を持ちかけられています。」

16チームであれば1会場でもできないことはありませんが、24チームになると1次予選に6チームずつ4都市での会場が必要になります。6チームがリーグ戦を行い、各グループの下位2チームはその時点で帰国してもらうという“ノックダウン方式”という方法だそうです。次に上位16チームによる2次予選で、下位8チームはノックダウン方式により帰国することになります。最後は8チームでトーナメント戦を行って、1位から8位を決定するというやりかたです。」

—— さいたま以外にも開催地を募ることになりますか？

「新たな方式では全部で4都市の開催地が必要で、FIBAの条件に適合する体育館の有無や、ホテル、会場へのアクセスなどについて調査検討中です。2次予選以降はさいたまの1会場で可能ですが、宿泊施設などは不足で東京地区にも求めなければならないと思います。FIBAの会議などは東京でということになるかも知れません。」

—— 24チーム制ということになると日本はどうでしょうか？

「そんなに甘くないと考えています。アジアでの枠は1チーム増えますが、オセアニア地区やヨーロッパでもチーム数が増えます。オーストラリアやフランス、リトアニアなどのヨーロッパ勢は今回出場できませんでしたが、これらの強豪チームができますので、日本が1次予選を突破することは大変なことです。

しかし1次予選を突破しなければ、日本で開催する意味がありませんので、これから強化に本腰を入れていかなければなりません。」

—— 先日発表された“変革21”の強化方針でも具体的に長期目標を掲げていますが、2006年はどうでしょうか？

「大変だと思います。“変革21”はミニからナショナルチームまで、各年齢層別にエンデバー計画によって一貫した強化を図っていくという長期計画ですから、結果がすぐに現れるものではありません。しかしミニからナショナルまで組織立った強化を行い、全国津々浦々まで一貫した方針に理解と協力をしていただくとともに、優秀な選手がいたら強化方針にのっとって育成に取り組んでもらえば将来は明るいと思います。」

—— 中学、高校という若いうちからの強化が大切ですね。

「すでに中学、高校ではその方向で強化に入っています。今年はその一環としてウィンターカップの開催期日と場所を変更するという決断をしました。アジアジュニア選手権は男子がクエートで12月10日から16日まで、女子がタイペイで7月に開催される予定でしたが、開催国の都合で再三変更され、とうとうウィンターカップの開催時期と重なってしまいました。特に男子は、来年マレーシアで開催予定のジュニア世界選手権のアジア予選を兼ねており、該当するトップレベルの選手を派遣しようとしています。やっと軌道に乗ったウィンターカップ開催を変更するのは大変なリスクがあり本意ではありませんが、国内よりも世界に目を向けて強化を行わない限り、日本のバスケットボールが発展する道はないと考え、諸方面にご迷惑をおかけするのを十分覚悟の上、あえて変更に踏み切りました。

協会の強化本部長は尾崎会長ですが、私は会長と常に連絡をとりながら強化の実行部隊として責任を持って第一線で頑張っていく決意です。」

—— 日本協会の強化方針については、全国的な理解と協力が必要と考えますがPRの方は如何ですか？

「アジアジュニア選手権の開催期日の変更については、私もアジアの役員として相当折衝しましたが、開催国の事情でどうにもならずウィンターカップの開催時期と重なってしまい、関係各位にご迷惑をおかけする結果になりました。しかしながら、世界に向けて強化を図るということを是非ともご理解いただいてご協力をお願いしたいと思います。このような環境については、アジアジュニア選手権に出場する選手は勿論のこと、役員も含めて、今回の出場は日本全国の協力があってこそのこと、という認識をもって戦ってもらいたいと思います。こうして日本全国が一つの方向に向かって努力するという姿勢が大切なのです。」

—— 先ほどアジア連盟の役職に就任した由を伺いましたが、これから大変ですね。

「今までは国際部の諸先輩が自分の仕事を犠牲にして、バスケット外交を展開してくれましたが、これからは私自身も頑張らねばならないと思っています。後進国と言われたアフリカも最近は大変レベルアップされ、アジアも日本のみならず全体がレベルアップしていく必要があります、そのために外交面でも頑張っていくつもりです。

私自身バスケットの仕事は天職だと考えていますので、精神的にはそう苦にはなりませんが、勤務に対して100%甘えるわけにもいかないのが悩みです。」

—— **大学の仕事と協会の仕事、更にアジアの要職で大変な激務だと思いますが、世界選手権開催に向けてこれからも是非ご尽力をいただきたいと思いますが。**

「現在では私のバスケットボール歴で最後の大仕事と受け止めています。強化の方も決して順調ではありませんが、一步一步積み上げて粘り強く前進することが必要です。会長も私も強化についてはプロパーでもあり最大限に取り組んでいきます。

アテネ五輪の予選になるアジア選手権では、男女とも予選突破を目指します。男子は少しずつ良くなっていますし、女子は世界選手権で少し失敗しましたが、ベテランと若手の混合チームで円熟味を増しており、今回を教訓にこれから気持ちを切り替えて行けば将来は明るいと感じています。2006年世界選手権の運営という大事な仕事もありますが、当面日本協会として日々努力しなければならないのは日本の強化だと思います。エンデバー計画も更に煮詰めていかなければなりませんし、やはりそれらを成功させるためには、日本の頂点であるナショナルチームが羽ばたいてくれなければなりません。

私はバスケットボール界では結構きつい意見も述べてきましたが、これも日本のバスケットボールがより良くなることを願ってのことです。しかし、現在の立場では皆さんの意見をより多く吸い上げて、全体をまとめていく役に徹しています。理事会でも活発に意見がでるようになりましたし、全体的にもいい方向に向かっていると自負しています。」

—— **日本協会への協力という意味では、幸い私どもは少々時間もとれますので、何かお役に立ちそうなことがありましたら協力しますので、ご遠慮なくお申し出いただきたいと存じますが。**

「大変有難いお申し出と感謝します。日本協会はPR面ではいささか弱点もあり、その辺を補完していただければ幸いです。是非ご協力をお願いしたいと思います。今までやってきた財政改革、強化の長期方針に加えて次は構造改革を考えており、日本協会も大きく変わらなければならないと思います。

日本のバスケットボール強化発展のために、これから自分が犠牲になっても、しっかりやっていくつもりでいますので、よろしくお願いします。」

—— **大変ご心労も多いことと思いますが、健康には十分ご留意のうえ日本バスケットボールのためにご尽力いただきたいと存じます。振興会も微力ながら日本協会には積極的に協力致しますので、これからもよろしくお願い致します。本日は大変有難うございました。**

※日本バスケットボール協会事務局長

このほど日本協会では富沢事務局長がJBLへ出向し、代わって広報部長の早川忠雄氏が兼任で事務局長に就任されました。

日本バスケットボール協会中長期強化計画

日本バスケットボール協会は去る5月に「世界で勝てる」チーム作りを目指して、従来の強化体制を抜本的に見直し、「JABBA変革21」と称する中長期強化計画を発表しました。その内容について以下に概要をご紹介します。

はじめに

強化本部長 尾崎正敏

バスケットボール日本代表チームは、男子は1976年のモントリオールオリンピック、女子は1996年のアトランタオリンピックを最後に出場の機会から遠のいております。また、世界選手権大会は1998年の男子ギリシャ大会、女子ドイツ大会にアベック出場を果たしましたが、それぞれ14位、9位という成績で、世界では勿論、アジアにおいてもますます遅れをとりつつあるという危機感に迫られているのが日本の現状であります。

日本バスケットボール協会強化本部では、世界的にもアジアにおいても遅れをとっている現状を再認識し、「世界で勝てる」チーム作りを目指し、従来の強化体制を抜本的に見直すことといたしました。

日本の長身選手も増加傾向にはあるものの、世界の強国の長身選手との競り合いでは、まだまだ見劣りする部分があることは否めません。長身選手の育成が今後の重要テーマであることは言うまでもありませんが、こうした条件下、世界に伍して戦い、そして「世界で勝つ」ためには、「日本のオリジナルバスケットボール」を構築する必要があります。

では、オリジナルバスケットボールとは何か。強化本部では、「日本人の特性である走力、敏捷性、スピードを最大限に活かした平面的でハイペースなバスケットボール」こそ、日本のオリジナリティであり、再生への活路を開くポイントであると考えております。オールコートディフェンスを中心に据えたディフェンスのバリエーション、オフェンスに転じた時のスピーディな展開は、国際ルールの変更（8秒ルール、24秒ルール、クォーター制と4ファウル制）にもマッチし、世界の強国との差を縮める可能性を持っています。

強化本部は20年先までも見据えた日本の強化策を「JABBA変革21」と銘打ち、具体的なプランニングに着手します。今回その骨子をまとめておりますが、活力ある強化本部の構築のもと、（1）日本代表チームの強化、（2）底辺の拡充と選手の育成・強化、（3）指導者の育成、を基本的な活動方針として掲げ、強化本部を中心にして議論を尽くし、さらにはご関係の皆様との積極的な意見交換により、これらの活動を成功させたいと考えております。

我々のゴールはオリンピックと世界選手権の両大会に日本代表チームが出場することは勿論、「オリジナルバスケットボール」を駆使して世界が瞠目する戦いを繰り広げることにあります。そして20年後には、これら国際大会において入賞、メダル獲得を狙うに十分な実力をつけた日本代表チームが編成されるように努力して参ります。

当面の強化は、中国や韓国などアジアのライバルに打ち勝ってアテネオリンピック男女アベック出場を3ヵ年計画といたしますが、同時に中長期的な視野に立って活動し、最適な強化策を図り、日本が国際舞台で活躍出来る日の一日も早くらんことを願っております。

「JABBA変革21」ならびに日本バスケットボール協会への、ご関係の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

JABBA変革21概要

ミニから日本代表チームまでの一貫した強化体制

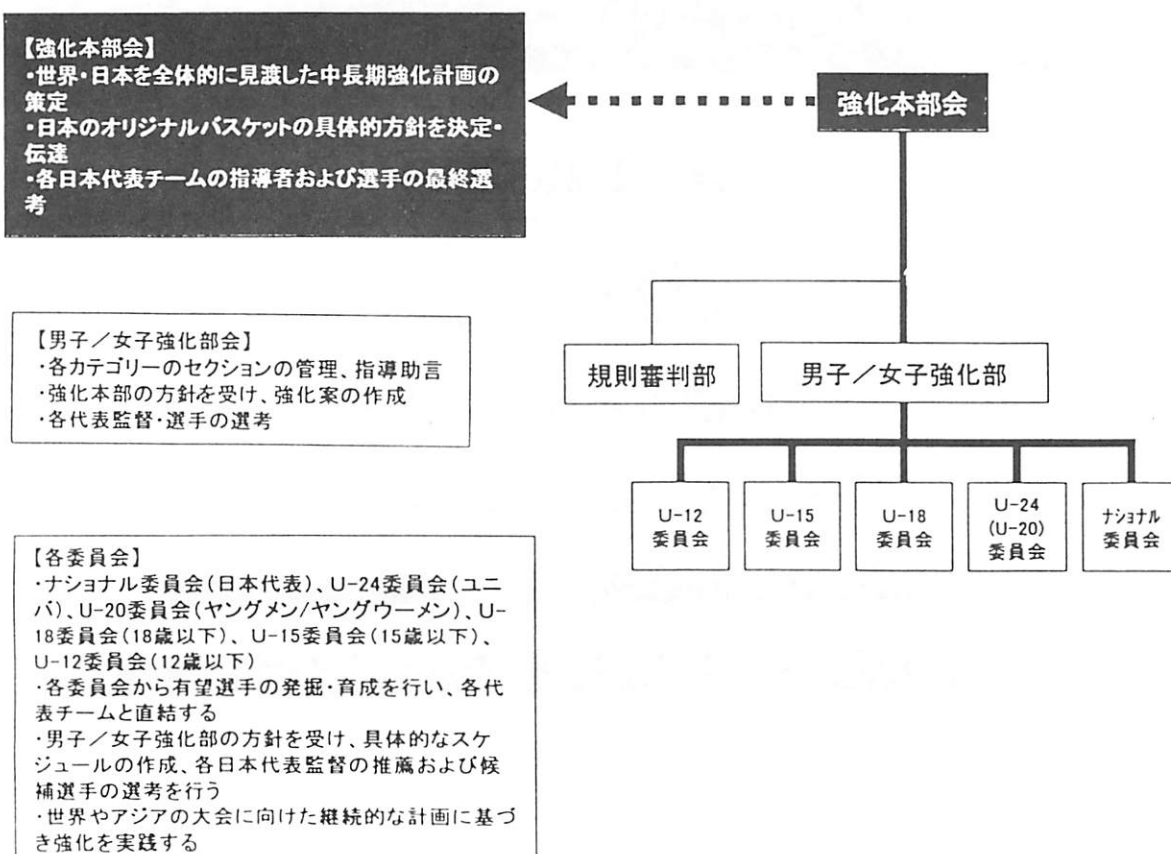
活力ある強化本部の構築

強化本部の組織と役割分担

【強化本部組織図】

■役割分担の明確化

■男女、縦横など本部内各セクションの情報流通の活性化、連携の強化



中長期強化計画「20年構想」の3本柱

(1) 日本代表チームの強化



■3カ年計画(2002～2004)
→ 年齢別カテゴリー制度

(2) 底辺の拡充と選手の育成・強化



■ミニからの一貫強化育成システム
→ エンデバー制度

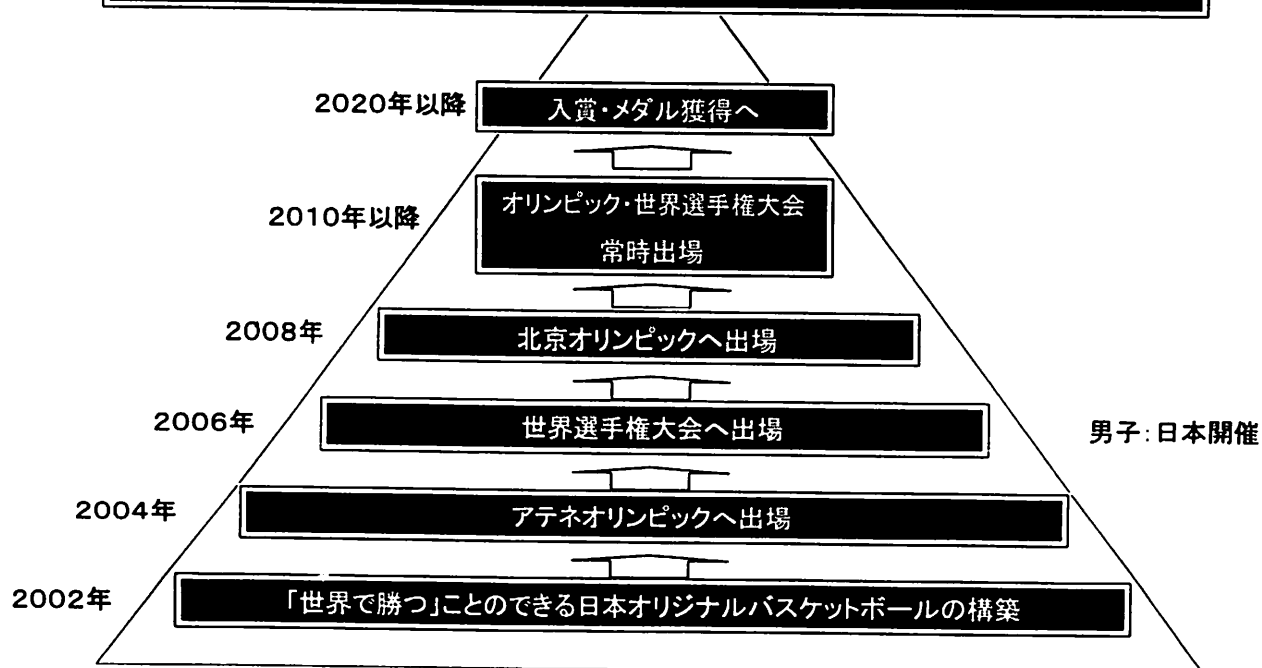
(3) 指導者の育成

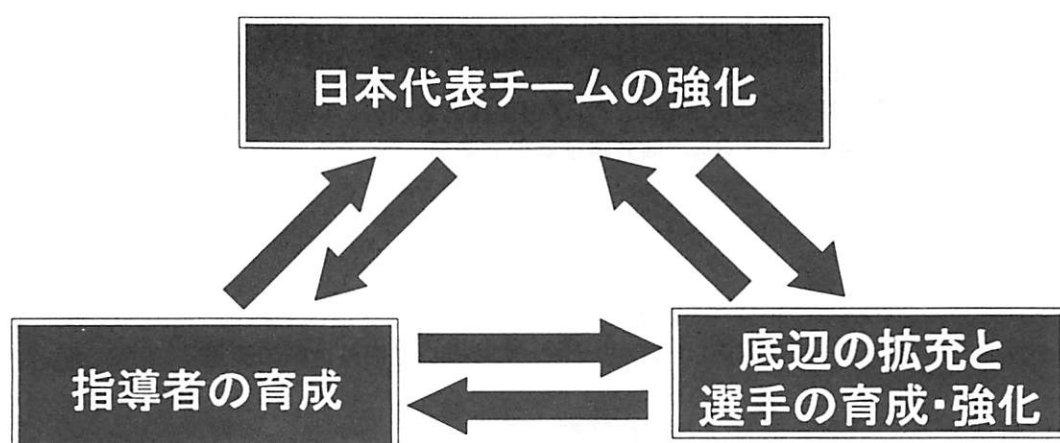


■指導者の育成システム
→ コーチライセンス制度

中長期強化計画「20年構想」

「日本代表チームの強化」「底辺の拡充と選手の育成・強化」「指導者の育成」





三位一体で「20年構想」の実現へ

2004年アテネオリンピック出場

2008年北京オリンピック出場

2010年～世界選手権大会・オリンピック常時出場

2020年～入賞、メダル獲得

(1) 日本代表チームの強化

年齢別カテゴリー制度

【①年齢別カテゴリーのシステム】

■主に国際バスケットボール連盟(FIBA)主催大会の年齢別カテゴリーに対応したチーム編成を行う

カテゴリー	主体となる年代	構成内容	主な国際大会	年齢制限
日本代表	15歳以上	日本バスケットボール協会に所属するすべての選手が対象で、社会人(JBL/WJBL、実業団、クラブ、教員など)、大学生、高校生などからピックアップし最強チームを編成する	オリンピック 世界選手権 アジア選手権	なし
U-24日本代表	24歳以下 大学卒業2年以内	大学生及び資格を有する選手の中からピックアップし、日本代表に直結する選手で構成する	ユニバーシアード	28歳以下 大学卒業 2年以内
U-20日本代表	20歳以下	20歳以下で資格を有する者の中からピックアップし、日本代表やU-24日本代表に直結する選手の育成	ヤングメン・ヤングウーマン 世界選手権/アジア選手権	20歳以下
U-18日本代表	18歳以下	18歳以下の高校生を中心としたジュニア層よりピックアップ、U-15からも優れた選手を登用	ジュニア 世界選手権/アジア選手権	18歳以下
U-15	15歳以下	15歳以下の中学生を中心とした層よりピックアップし国内でのレベルアップを行う		
U-12	12歳以下	15歳以下の中学生を中心とした層よりピックアップし国内でのレベルアップを行う		

【②強化スケジュールの作成】（日本代表チームの活動期間の優先確保と効率的なスケジュールの作成）

A) 目標とする大会の設定

- オリンピック・世界選手権大会前の3年間、アジア選手権大会前の2年間を日本代表チーム強化期間として設定
- 対応したセレクション期間、強化合宿、海外遠征等の立案
- カテゴリー間の連携

B) 情報収集活動

- 世界各国での公式ゲーム、招待ゲーム等のスケジュール把握
- 上記各ゲームスケジュールに対応したスカウティング、あるいは海外遠征の実施

C) 日本代表チームの活動を最優先にした調整

- 国内大会（全日本総合、JBL、WJBL、インカレ、ウインターカップ等々）スケジュールを必要に応じて調整

D) 目的と全体スケジュールの明確化・選手の派遣依頼とフォロー

- 選手の所属団体、所属チームの理解・協力の取り付け、信頼関係の構築

【③指導者の一貫性】

- 年齢別カテゴリー日本代表にリンクした指導者の起用と、体制の継続
- 過去にオリンピックや世界選手権で指導者・選手として活躍した人材の活用

【④選手の発掘と育成・強化】

- 長身者の発掘と育成・強化
- 能力ある若手選手の日本代表チームへの抜擢～国際大会・海外遠征参加機会の拡充
- 精神面の強化、海外でのコミュニケーション能力の向上

【⑤バスケットボール界の情報収集とその活用】

- 「アジア」「世界」のバスケットボール界の情報収集と分析のためのスタッフの確保
- 分析結果を活用できるシステムの構築、データの蓄積

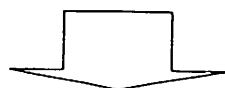
【⑥年齢別カテゴリー日本代表の支援体制の整備】

- 体力、精神面についての科学的トレーニングスタッフの充実（国立スポーツ科学センターとの連携）
- けがの予防、治療などのメディカルチェック体制の構築

(2) 底辺の拡充と選手の育成・強化

エンデバー制度

- プレーヤーのレベルにあわせた環境の整備
- チーム・指導者・審判・大会の充実、底辺からの一貫した指導方針
- 将来の日本代表チームでの活躍を想定した、計画性のある強化スケジュール



エンデバー制度
endeavor; 努力(する)

【エンデバー制度とは】

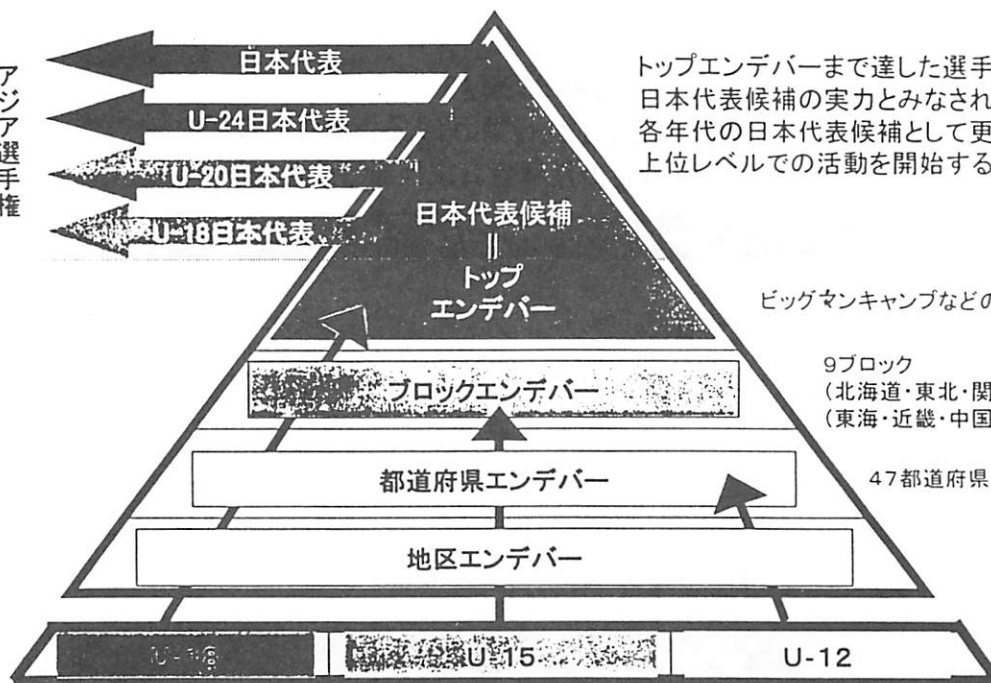
- より高いレベルを目指したプレーヤーや指導者の、講習・交流の場
- 年齢別カテゴリー（U-12、15、18、20、24）、エリア（各地区、47都道府県、9ブロック、トップ）単位で編成する

エンデバー制度

日本代表

エンデバー

アジア選手権
世界選手権
オリンピック



① トップエンデバー

- ・年齢別カテゴリー・ピラミッドの頂点にあたる
- ・日本協会が主催・運営する
- ・年間スケジュールの調整を行い、3名程度の指定指導者により、通算20日程度の練習や合宿などを行う

② ブロックエンデバー

- ・北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州の9ブロックに分割する
- ・トップエンデバーに向けて、都道府県エンデバーより高度な練習会、合宿、大会、選手選考、指導者講習を実施
- ・トップエンデバー指定指導者と各ブロック担当の日本協会スタッフ、ブロックから選出されたスタッフが運営・指導にあたる

③ 都道府県エンデバー

- ・U-15～U-18の中心的活动単位
- ・ブロックエンデバーに向けての選手選考、地区エンデバーより高いレベルでの練習会・指導者講習を行う
- ・ブロック・都道府県から選出されたスタッフが運営・指導にあたる

④ 地区エンデバー

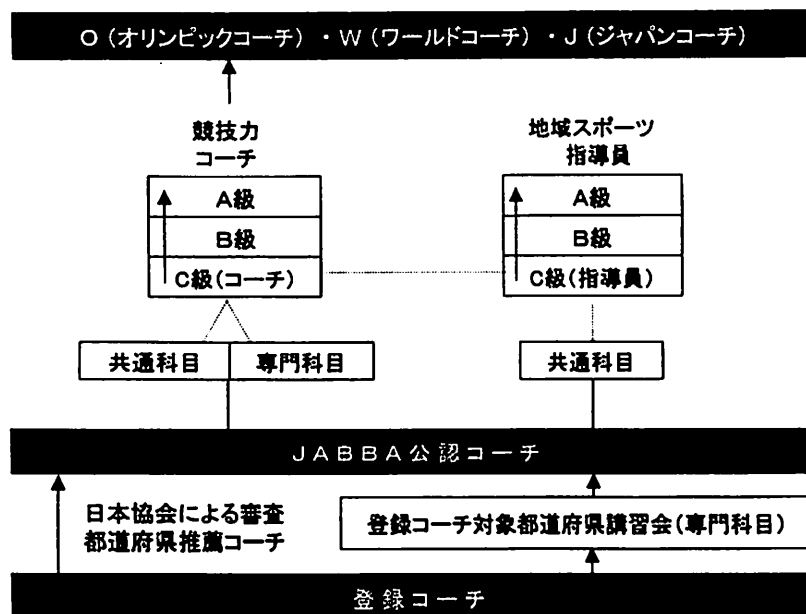
- ・U-12～U-15の中心的活动単位
- ・都道府県によって数や規模が変わるが、都道府県を地区や市町村単位などに細分化し編成する

(3) 指導者の育成

コーチライセンス制度

【コーチライセンス制度の充実】

「強い意思」と「豊富な経験」と「行動力」ある指導者の育成
日本協会、都道府県協会の指導者育成担当者の連携



【コーチライセンス一覧】

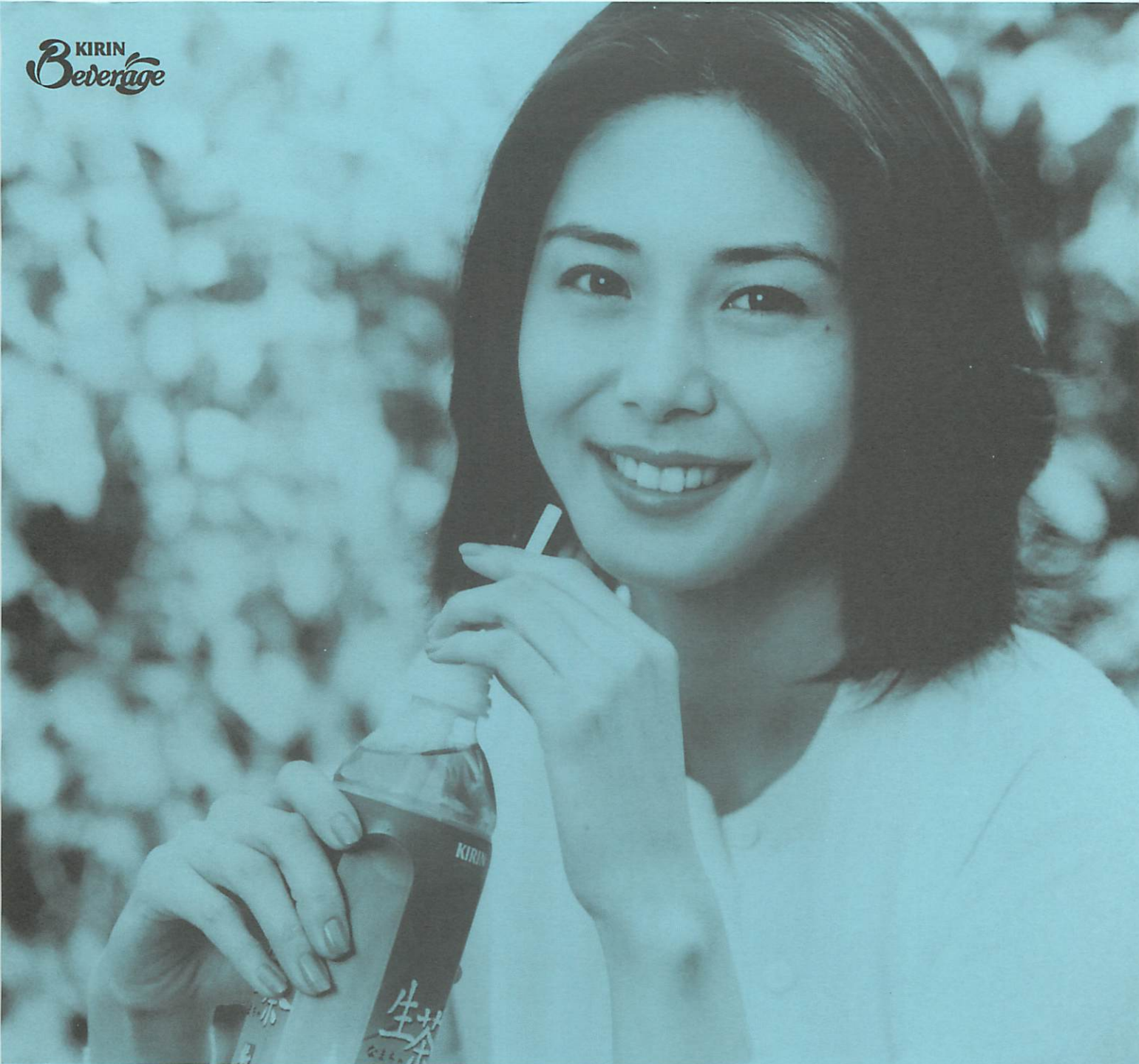
	公認A級コーチ	公認B級コーチ	公認C級コーチ	地域スポーツ指導員	各都道府県推薦コーチ(JABBA公認コーチ)
資格認定	日本体育協会・日本バスケットボール協会				日本バスケットボール協会
資格取得条件	日本体育協会・日本バスケットボール協会が主催する講習会を受講し、所定の成績を修めること				各都道府県協会(平成13年のみ)
目安とする指導対象年齢	ナショナルチーム	18歳以上	15歳～18歳	12歳以下	18歳以上
資格有効期間	4年	4年	4年	4年	4年
資格取得講習会開催団体	日本体育協会・日本バスケットボール協会			47都道府県バスケット協会・日本体育協会	47都道府県バスケット協会など
講習会名称	公認A級コーチ養成講習会	公認B級コーチ養成講習会	公認C級コーチ養成講習会	地域スポーツ指導員講習会	各都道府県協会にて決定
講習会開催数	年1回(A/B/Cのいずれか)			各都道府県協会にて決定	各都道府県協会にて決定
募集人員(1コースあたり)	47人			40人	各都道府県協会にて決定

参考資料:男子日本代表チームの国際大会での戦績

【オリンピック】				【世界選手権】		【アジア大会】		【アジア選手権】					
1936年	第11回	ベルリン	9位～14位										
1951年						第1回	ニューデリー	2位					
1954年						第2回	マニラ	3位					
1956年	第16回	メルボルン	10位										
1958年						第3回	東京	3位					
1960年	第17回	ローマ	15位						1960年	第1回	マニラ	3位	
1962年						第4回	ジャカルタ	2位					
1963年				第4回	ワシントン	13位			1963年	第2回	タイペイ	不参加	
1964年	第18回	東京	10位										
1966年						第5回	バンコク	4位	1965年	第3回	クアラルンプール	優勝	
1967年				第5回	モンテヴィデオ	11位			1967年	第4回	ソウル	3位	
1968年	第19回	メキシコシティ	不参加										
1970年				第6回	リュブリアナ	不参加	第6回	バンコク	3位	1969年	第5回	バンコク	2位
1972年	第20回	ミュンヘン	14位						1971年	第6回	東京	優勝	
1974年				第7回	サンファン	不参加	第7回	テヘラン	7位	1973年	第7回	マニラ	4位
1976年	第21回	モントリオール	11位						1975年	第8回	バンコク	2位	
1978年				第8回	マニラ	不参加	第8回	バンコク	4位	1977年	第9回	クアラルンプール	3位
1980年	第22回	モスクワ	不参加						1979年	第10回	名古屋	2位	
1982年				第9回	カリ	不参加	第9回	ニューデリー	3位	1981年	第11回	カルカッタ	3位
1984年	第23回	ロサンゼルス	不参加						1983年	第12回	ホンコン	2位	
1986年				第10回	マドリッド	不参加	第10回	ソウル	6位	1985年	第13回	クアラルンプール	5位
1988年	第24回	ソウル	不参加						1987年	第14回	バンコク	3位	
1990年				第11回	ブエノスアイレス	不参加	第11回	北京	4位	1989年	第15回	北京	4位
1992年	第25回	バルセロナ	不参加						1991年	第16回	神戸	3位	
1994年				第12回	トロント	不参加	第12回	広島	3位	1993年	第17回	ジャカルタ	7位
1996年	第26回	アトランタ	不参加						1995年	第18回	ソウル	3位	
1998年				第13回	アテネ	14位	第13回	バンコク	10位	1997年	第19回	リヤド	2位
2000年	第27回	シドニー	不参加				第14回	釜山	2002年10月	1999年	第20回	福岡	5位
2002年				第14回	インディアンポリス	不参加	第14回	釜山	2002年10月	2001年	第21回	上海	6位

参考資料:女子日本代表チームの国際大会での戦績

【オリンピック】				【世界選手権】		【アジア大会】		【アジア選手権】					
1953年				第1回	サンチャゴ	不参加							
1957年				第2回	ワシントン	不参加							
1959年				第3回	モスクワ	不参加							
1964年				第4回	リマ	9位							
1965年									1965年	第1回	ソウル	2位	
1967年				第5回	ブラハ	5位							
1968年									1968年	第2回	タイペイ	2位	
1971年				第6回	サンパウロ	5位			1970年	第3回	クアラルンプール	優勝	
1972年									1972年	第4回	タイペイ	不参加	
1974年							第7回	テヘラン	優勝	1974年	第5回	ソウル	2位
1975年				第7回	カリ	2位							
1976年	第21回	モントリオール	5位				第8回	バンコク	3位	1976年	第6回	ホンコン	3位
1978年										1978年	第7回	クアラルンプール	3位
1979年				第8回	ソウル	6位							
1980年	第22回	モスクワ	不参加				第9回	ニューデリー	3位	1980年	第8回	ホンコン	3位
1982年										1982年	第9回	東京	3位
1983年				第9回	サンパウロ	12位							
1984年	第23回	ロサンゼルス	不参加							1984年	第10回	上海	3位
1986年				第10回	モスクワ	不参加	第10回	ソウル	3位	1986年	第11回	クアラルンプール	4位
1988年	第24回	ソウル	不参加							1988年	第12回	ホンコン	4位
1990年				第11回	クアラルンプール	12位	第11回	北京	4位	1990年	第13回	シカゴ	3位
1992年	第25回	バルセロナ	不参加							1992年	第14回	ソウル	3位
1994年				第12回	アデレード	12位	第12回	広島	2位	1994年	第15回	仙台	3位
1996年	第26回	アトランタ	7位				第13回	バンコク	優勝	1995年	第16回	静岡	3位
1998年				第13回	ベルリン	9位				1997年	第17回	バンコク	2位
2000年	第27回	シドニー	不参加							1999年	第18回	静岡	2位
2002年				第14回	蘇州	2002年 9月	第14回	釜山	2002年10月	2001年	第19回	バンコク	2位



みんなが

生茶を

飲んでる。

生茶のおいしさが全国に広がっています。コクとすっきり
をあわせもった、生茶葉のうまみのおかげでしょうか。
あの人が、そしてみんなが、今日も生茶を飲んでいる。



キリン「生茶」

生茶葉抽出液使用・加熱処理
のんだあとはリサイクル



molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



- FIBA (国際バスケットボール連盟) 主催国際大会唯一の公式試合球
- a b c (アジアバスケットボール連盟) 主催大会唯一の公式試合球
- J B L (バスケットボール日本リーグ機構) 主催大会唯一の公式試合球
- WJBL (バスケットボール女子日本リーグ機構) 主催大会唯一の公式試合球

MTB7WW JB2020 7号球 ¥7,800 (メーカー希望小売価格)
国際公認球・検定球・貼り・天然皮革・ワイドチャンネル